

令和7年度 第2回阪南市地域公共交通会議 会議録

【開催日時】 令和7年9月25日（木） 午後3時00分から開催

【開催場所】 阪南市役所3階 全員協議会室

【出席委員】 委員25名中、20名の出席の下、開催した。

井上 稔、魚見 岳史、森貞 孝一、川村 和幸、竹中 宏子、南 憲治、小森 成人、
讃井 聡（途中から参加）、尾原 健一、西谷 興季、杉田 精教、田中 郁代、日野 泰雄、
伊勢 昇、小林 征治、下川 昌、徳田 弥之、田中 久美子、宮崎 博幸、藤本 健一、井本 昌彦

【欠席委員】 小川 和彦、栗原 岳志、奥野 英俊、富岡 弘

【傍聴者】 3名

【案 件】

- （1）阪南市地域公共交通計画について
- （2）阪南市地域公共交通計画策定業務におけるアンケート調査について
- （3）その他

【結 果】

- ・ 会議及び会議録の公開について、承認を得た。
- ・ 地域公共交通計画の進捗について報告し、承認を得た。
- ・ 阪南市地域公共交通計画策定業務におけるアンケート調査について、報告し承認を得た。

【質疑応答】

1) 阪南市地域公共交通計画について

(委 員) 他市町の交通計画の状況と比較しての意見となるが、現況の整理について、コミュニティバスの収支状況はあるが、路線バスのデータ等は記載する予定はあるのか。事業者と協議して、交通すべての収支や運転手などの状況を出すのか、市にて検討していただければと思う。

次に、公共交通の現状部分で鉄道、バス、タクシーの記載はあるが、無料の送迎バスであったり、スクールバス、地域の補助的な交通などについて、今後10年の計画となるので、国の方針でも共創の取組として地域の交通資源の総動員をということがいわれているので、今後そのような取組を活用していく意向があれば記載しておくことも良いのではないかな。

最後に市の公共交通にかかる負担額を記載されてる自治体さんもありますので、そういったこともご紹介させていただきます。

(事務局) 前回の会議でも少しふれましたが、計画の策定に際し、交通事業者との連絡会も実施予定となっておりますので、会議等でも計画の策定に向けて事業者とコミュニケーションを取りながら進めてまいりたいと考えております。

また、共創などの取組についても、計画の策定に際して実施を予定しております市の庁内会議にて既存の交通資源等についても現状の整理をしてまいりたいと考えております。今後、庁内会議等にて把握した交通資源等の情報についても本会議にてご報告させていただければと思います。

(会 長) ありがとうございます。同委員からは前回会議においても、コロナ禍のパーソントリップ調査は特殊状況である旨のご意見もいただいておりますのでその点も踏まえましてご議論いただければと思います。

(委 員) 阪南市の新興住宅は高いところにある。今後、新興住宅の高齢者の移動手段については喫緊の課題であると地域も認識しているところ。自治会なども取組に活発で自分たちが運営する施策などの要望も行っているところであるが、なかなか進まない。これから免許の返納などもありいよいよ移動手段がなくなるのではないかと不安になっている。その現状も踏まえていただきたいと思う。

(事務局) 本市のまちづくりの構造を見ていくと、ラダー状の道路網に山間部の開発地が多く、そこに住む方々の状況というのも見えてきているところ。現状の分析に加え、今年度実施するアンケート調査にて市民のニーズなどしっかりと把握し、阪南市における持続可能な公共交通とはどういうものであるのか、しっかりと議論して計画を策定し施策を展開してまいりたい。

(副会長) 今委員からもお話がありましたが、大阪府内の衛星都市はすべて同じ状況となっており、山間部の高齢者の移動について課題となっている。その点については国も空白地域や不便地域の

方々の移動を考えてくださいということをよく言っている。そのために市も空白地域や不便地域を今後定義していくことになると思うが、駅や停留所から何メートルかなど直線距離で単純に定義するのではなく、高低差や実際の駅や停留所までの勾配や移動ルートなども踏まえしっかりと定義していくことになると思う。そのうえで、もう1つのテーマとしては先ほど委員からもあったような自治会などの地域に対して、地域の方々が集まって、何とかしようというところに関しては、それを支援するような仕組みを入れていくということが、基本的には次の計画に入れていかないといけないことだと思っています。ほとんどの市がそのような取組に動き出している。しかし、一方で私も地域などに出ていくと苦情や要望が多い。個人の意見となるとこっちもあっちもと対応はできないと思うので、そういう話をしてると前進まないから、基本的には自分たちでできることをまず考えて、それをやっていくために行政にどういう支援をしてもらったらいいのかということを提案していただくことも重要である。

そのような取組は他の自治体でも多く取り組まれていると思うので、本市についてもアンケート調査で各地域のニーズを踏まえたうえで、そのような地域主体の取組に対する支援事業を計画に落とし込んでいただけたらと思っています。その際に地域で手を挙げていただいて、自分たちが抱えている課題に対して提案していただくようなことができる考える。

もう1点、交通資源の総動員という話があったが、例えば送迎などもいいが、バスやタクシーなどの車両を使わない時間を活用するなど、バス協会などとも連携し、検討していただきたい。

(委 員) 先ほど副会長が言われた事業などについては国も共創事業という形で各自治体の事例などがあるため、今後共有させていただければと思う。

(委 員) 大阪府についても共創の取組に向けた事業を今年度から実施している。まずはノウハウづくりから始めて課題の解決に向けて進めているところ。また、情報提供もさせていただく。

(会 長) 本件については来年度の計画策定にも記載されていく事項ということで、今回各委員からいただいた意見も踏まえながら計画の策定へと進めるようお願いします。

(会 長) 原案通り承認するという事でよろしいか。

(異議なし)

2) 阪南市地域公共交通計画策定業務におけるアンケート調査について

(委 員) 他の自治体のアンケートなどを見ると、市が負担する金額とか財政負担をどう考えるかというところで、どのように見せるのか。例えば年間の予算を見せる自治体などもあるが市民1人あたりに税金をどのくらい負担しているのか見えるようにすると、市民の方々もわかりやすいと思う。

また、データが5年前となるとちょうどコロナの時期になると状況が全く違うために比較するときに注意が必要だと考えるが、その点の対策などはあるか。

(事務局) これまでも1人当たりの金額は出しているのですが、アンケートの設問部分においてご意見を踏まえながら対応したい。

また、比較する5年前のデータについてはコロナ前の実績値となるので、問題はないと考えている。

(委員) アンケートの回収率が40%とのことであるが、回収率が甘いのではないか。自治体のアンケートの回収率が20%以下という風に聞いている。ウェブでの回答なども検討するべきではないか。

また、新聞などを見ていると新たな交通サービスを始めている会社などもあると思う。そのような事業者を活用することも検討するべきではないか。

(事務局) 前回の計画策定時のアンケートが40%強あるということと、昨今交通に関する意識が高まっていることから同様の件数にて有意性をもてる回収率になると考えている。周知方法や回答方法などできるところについては十分に検討していきたい。また、それぞれの地域における意見等については、来年度の計画策定事業において地域への説明会や勉強会などを実施したいと考えている。予算措置がこれからになるため、確定はできないが、地域へ出ていくことでご意見をいただければと考えている。

また、新たな事業者との取組については阪南市においてもデマンドタクシーの実証実験を実施しているところ。結果については市ホームページ等にてお示ししている。本市の財政状況を踏まえ、どの分野に予算を配分していくのかについては、今後のアンケート結果などを踏まえ策定する方針に沿って取組を進めていきたいと考えている。

(副会長) 先ほどから意見も出ているが、このアンケート調査の結果を見て、現状とニーズにどれだけ乖離があるのか。その乖離をどのように解決していくのかを来年度の計画に答えとして記載していかないといけない。現在の阪南市の人口構成を見て現状をふまえると、従来あるような路線バスを維持することは非常に難しい。そのことも市民の方々に理解いただき、どのレベルまでサービスを落とせるのか。あるいはサービスを落とさないようにする、要望などがあるということであれば、どこまで負担を増やすことができるのか。

また一方で、公共交通を利用しない、乗らない人も含めて、そのような交通、移動が必要である人をどのように助けるのか。そのために地域で負担をし合うことも大事である。従って、そのような意識を市民の方々に意識いただけるよう広報などをできる限りしていただきたい。

(委員) 住民アンケートの対象者について、「6か月以上在住者を対象に、人口構成に応じて均等抽出」とあるが、年齢層と居住地域の両方で均等に抽出するのか。

(事務局) 地域については、現況調査で示している 4 地区(尾崎地区、西鳥取地区、下荘地区、東鳥取地区)の住所をもとに無作為抽出を行い、均等配分する予定です。

(委員) バス利用実態調査で、性別を調査員が記入することになっているが、性別も回答者本人に記入してもらったほうが良いのではないかな。

(事務局) ご指摘の点について、対応可能か検討します。

(会長) 本日いただいた意見等を踏まえ、アンケートの小項目、設問については学識委員の皆様のご意見をいただきながら事務局にて、アンケートを作成いただきたいと思います。

また、アンケート実施の際は十分な周知を行い、実施していくということをお願いします。

(会長) 原案通り承認するという事でよろしいかな。

(異議なし)

3) その他

特になし

【午後 4 時 3 0 分閉会】